

## 新高教第 91 回定期大会 20210717 執行委員長あいさつ 吉田裕史

すでに 1 年以上も続く新型コロナウイルス感染症の影響は、日常生活はもとより、私たちの運動にも様々な影響を与えています。日教組は 7～8 月開催予定の会議・集会については原則完全 Web 会議とすることを決めています。新高教も、5 月の本部執行委員会で同一会場に参集しての開催は難しいと判断して、原則 Web 開催とすることとし本日の定期大会を迎えました。参加された代議員に感謝いたします。

昨年は熊本豪雨で 67 人の方が亡くなりました。今月 3 日には熱海で土石流災害が起き、まだ多くの方が行方不明になっています。東日本大震災から 10 年、熊本地震から 5 年が経過しましたが、災害は忘れる間もなく激甚化、多発化しています。日教組によるカンパやボランティア派遣で感じるのは、組合の横のつながりの大切さです。昨年、新型コロナウイルスによる一斉休校で非常勤講師の報酬が出ない事態に対して、日教組加盟単組に問合せをした結果にもとづき県教委に是正させることができました。また、教員採用試験の中高一括採用についても他県高教組に問合せをして、新潟県のみ高校採用が激減している現状と問題点を明らかにすることができました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延は経済に深刻な打撃を与え、自助努力だけでは乗り切れない貧困や格差などの社会的な矛盾を表面化させています。大会スローガンの 1 項目目に「新型コロナウイルス感染症により、社会の分断が加速された今こそ、組合員・仲間のつながりを一層強め、組織の強化・拡大を実現しよう」として組織強化・拡大を掲げました。

定年退職者の増加、新規採用者の激減などにより組合員も減少しています。分会員が少なくなり組合活動が難しいという中で、分会オルグで出された「働き方改革と言うが多忙な実態は何も変わらない。」「過員処理で人数が減っても業務は削減されない。多忙感が増すばかりなのに、ICT や地域連携など新たな業務が下りてくる。」と言う声がありました。今後も、公務員定年延長や「廃止の方向で検討されている教員免許更新制」など大きな制度変更が想定されています。教研集会や組合学校で議論の場を設けながら批判的に検討を重ね、問題点を明らかにして交渉で制度を確立し、よりよいものにしていく必要があります。そして、少数職種や臨時・非常勤職員の処遇改善など求めていきます。

最後に、7 月 5 日に実習教員部総会、7 月 7 日に司書職員部総会、7 月 10 日に養護教員部総会が開催され、「この日が総会であることがありがたくてしょうがない。」「制約がある中、組合で話す機会、思いを共有できる場がありがたい。」「横のつながりを大切にして困ったり悩んでいたりを助けてもらった。」との発言がありました。組合の存在する意味はここにあると再認識しました。現在、忙しさを増す職場の中でなかなか愚痴をこぼしたり、ゆっくりと話し合うなどのこれまで「あたりまえ」だった営みが持てなくなっています。

本日の定期大会参加の代議員も「支え合う仲間の大切さ」を十分に理解していると思います。日頃、職場で考え思っている事を忌憚なく討論で発言をお願いします。